

特別警報

特別警報は、大規模な災害の発生が切迫していることをお知らせする警報です。普段からの備えと、早め早めの行動があなたや身近な人の命を守ります。

特別警報の発表基準

現象の種類	基準	
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合	
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により	暴風が吹くと予想される場合
高潮		高潮になると予想される場合
波浪		高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	

※表中の“数十年に一度”の現象に相当する降水量等の客観的な指標は気象庁ホームページで公表しています。

緊急地震速報などを特別警報に位置づけます

現象の種類	基準
地震(地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合 (緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合 (噴火警報(居住地域)を特別警報に位置づける)
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合 (大津波警報を特別警報に位置づける)

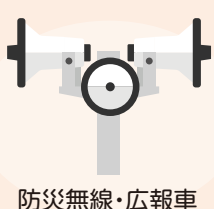
特別警報が発表されたら

- 尋常でない大雨や津波などが予想されています。
- 重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

特別警報が発表される前から、災害情報の収集をしよう!

命を守るために情報の収集に努めてください

特別警報は、自治体や報道機関を通じて伝えられます。テレビやインターネット、自治体から発信される情報の収集に努めてください。



「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。特別警報が発表されないからといって安心することは禁物です。

これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。普段から避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

※気象庁HPより一部を抜粋して掲載

「特別警報」については、大分地方気象台HPに詳細が掲載されていますので、ご確認ください。

大分地方気象台

〒870-0023 大分市長浜町3丁目1番38号 電話: 097-532-0644
【大分地方気象台ホームページ】 <https://www.jma-net.go.jp/oita/>

災害用伝言ダイヤルとは?

NTTでは、災害発生時に、被災地への通話がつながりにくい状況の場合、被災地内の安否などの情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置します。

※伝言蓄積数や保存期間は災害の状況により異なります。

災害用伝言ダイヤルの使い方

伝言の録音	171-1-●●●●●●●●●●●●●●●●	(自宅の電話番号、または連絡を取りたい方の電話番号)	伝言保存期間	提供終了まで
伝言の再生	171-2-●●●●●●●●●●●●●●●●		伝言蓄積数	1電話番号あたり1~20伝言まで
伝言内容(時間)	1伝言あたり30秒以内		利用可能電話	加入電話、ISDN、ひかり電話、携帯電話(一部除く)等 ※ISDNおよびひかり電話をご利用でダイヤル式電話機をお使いの場合はご利用になれません

防災対策&非常時持出品

防災対策

事前に準備出来ているか、常にチェック☑しましょう。

家の中の安全対策	
家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる	部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。
家具の転倒を防ぐ	家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。
寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない	就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。
安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない	玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。

家具の転倒、落下を防ぐポイント		家の周囲の安全対策	
タンス・本棚	L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。	屋根	不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。
食器棚	L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。	窓ガラス	飛散防止フィルムをはる。
照明	チェーンと金具を使って数が止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。	プロパンガス	ボンベを鎖で固定しておく。
冷蔵庫	扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。	ベランダ	植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。
テレビ	できるだけ低い位置に固定しておく(家具の上はさける)。	ブロック塀・門柱	土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。
ピアノ	本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。		

非常時持ち出し品(例)

いざというときにすぐに出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

携帯ラジオ

- ☐ ラジオ
- ☐ 電池 (多めに用意)

救急医療品

- ☐ 常備薬
- ☐ 鎮痛剤
- ☐ 包帯
- ☐ 傷薬
- ☐ 絆創膏
- ☐ 胃腸薬
- ☐ 風邪薬

貴重品

- ☐ 現金
- ☐ 預金通帳
- ☐ 印鑑
- ☐ 免許証
- ☐ 健康保険証
- ☐ 権利証書

懐中電灯

- ☐ 懐中電灯 (できれば一人にひとつ)
- ☐ 電池 (多めに用意)

非常食品等

- 火を通さなくて食べられるもの、食器など
- ☐ 非常用食品
- ☐ 缶切り
- ☐ 紙皿
- ☐ 紙コップ
- ☐ 水筒
- ☐ 缶詰
- ☐ ミネラルウォーター
- ☐ 栓抜き

その他

- ☐ ろうそく
- ☐ 軍手
- ☐ 応急手当て用品
- ☐ 衣類(下着・上着など)
- ☐ 生理用品
- ☐ 離乳食
- ☐ 粉ミルク
- ☐ ティッシュ
- ☐ ウェットティッシュ
- ☐ ヘルメット
- ☐ ラップフィルム (止血や食器にかぶせて使う)
- ☐ ハザードマップ(本書)
- ☐ ロープ
- ☐ ホイッスル
- ☐ ハサミ
- ☐ 筆記用具・メモ帳
- ☐ 家族の連絡先
- ☐ 安否確認方法
- ☐ タオル
- ☐ 紙おむつ
- ☐ 雨具(カッパ)
- ☐ ライター
- ☐ 携帯電話
- ☐ 携帯電話の充電器
- ☐ ゴミ袋
- ☐ ビニールシート

非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるようにチェック☑しましょう。

飲料水

- ☐ 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)
- ☐ 貯水した防災タンクなど

非常食品

- ☐ お米(缶詰・レトルト・アルファ米も便利)
- ☐ 缶詰・レトルト食品
- ☐ 梅干し・調味料など
- ☐ ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

燃料

- ☐ 卓上コンロ
- ☐ ガスボンベ
- ☐ 固形燃料

その他

- ☐ 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- ☐ 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- ☐ 調理器具(なべ・やかんなど)
- ☐ バケツ・各種アウトドア用品など

食品や飲料水の賞味期限はまめにチェックして、賞味期限がせまったものから順に入れ替えてね。

非常時持ち出し品は定期的に点検を!

避難生活が長引くときに便利なもの

携帯トイレ、使い捨てカイロ、裁縫セット、ガムテープ、地図、さらし、スコップなど。

阪神・淡路大震災で役に立ったもの

ポリタンク、ホイッスル、予備の眼鏡・補聴器、新聞紙、補助用具としてスコップ、パールやハンマー、のこぎり、車のジャッキなど。

非常時持ち出し品は、使用するときに支障のないように、定期的に点検しておきましょう。チェックシートにとらわれず、ご自身の必要なものを持ち出しましょう。

